

新トリンダ 試薬 HMPS の基本性能と 3ヶ月間の安定性の評価

山口 太 猪田 猛久 大峠 和彦 山本 慶和 松尾 収二 (天理よろづ相談所病院)

現在、トリグリセライド (TG) の測定法ではトリンダ - 試薬を呈色試薬として用い、生成した色素の吸光度より T 量を求めている方法が多い。このたび、和光純薬工業より HMPS [N-(3-スルホプロピル)-3-メチル-5-メチルアミノ] を用いた測定試薬が開発されたので、その基本性能と安定性を中心に検討した。

〔方法〕 分析装置は日立 7600 形自動分析装置 (F 型) を用い、試薬は L タイプ コー-TG・M (和光純薬) を用いた。比較対照の試薬としてピュアオ-TS TG-N (第一化学) を使用し、同時再現性、長期安定性、直線性、共存物質の影響、比較対照法との相関性について検討した。長期安定性については試薬を分析装置内に開封したまま検討した。

〔結果および考察〕 同時再現性は、管理血清 (平均 85mg/dl) およびプル血清 (平均 692 mg/dl) を 20 回多重測定した結果、CV 1.1 および 0.8% と良好であった、長期安定性は管理血清 (平均 88mg/dl)、プル血清 (平均 707mg/dl) およびイントラリポス (1%) について 3ヶ月間検討したところ、CV は各々、1.6, 1.0, 3.3% であり安

定していた。しかし、10% イントラリポスでは 2.5ヶ月を過ぎると測定値の上昇を認めしたが、これはイントラリポスの変質によるものと考えられた。またグリセリン (トルイ換算 4000mg/dl) は 1.5ヶ月後あたりから測定値の上昇を認め本試薬の遊離グリセリンの除去能の低下がみられた。測定に際して毎回キャリブレーションを行ったがブランク吸光度は 16~ 28mABS および K-Factor は 1521~ 1608 と大きな変化を認めず安定していた。直線性は、高濃度試料を 10 段階希釈し測定した結果 2000mg/dl までみられた。共存物質の影響については、溶血 (500mg/dl) およびビリルビン (20mg/dl) の影響は認められず、対照法との相関も、 $y = 1.0662x - 5.6337$, $r = 0.9974$ ($n=87$) と良好な結果が得られた。

〔まとめ〕 本試薬は 3ヶ月間は少なくとも安定な結果が得られ基本性能も問題はなかったが、高濃度グリセリンでは遊離グリセリンが十分に除去されない現象も認められた。

連絡先： 0743-63-5611 (内線 8523)